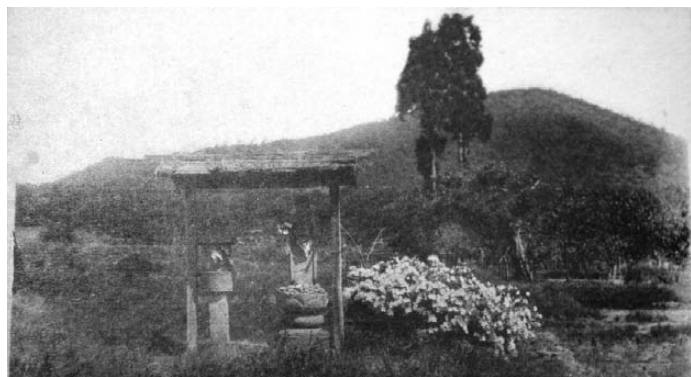


おしる 「上山城」からのたより冬・第91便

澤庵和尚旧蹟「春雨庵」について

寛永六年（一六二九）、紫衣事件により禅僧・澤庵宗彭が上山藩主土岐頼行のもとへ配流となった。和尚は上山城下に入ると、上山城本丸の東北方、師岡邸に到着したといわれる。当時の様子を伝える城絵図には上山城本丸西側にある大沼（現在の上山小学校グラウンド付近）西側には「澤庵屋敷」の記載があり、後にこの付近に移ったものと思われる。昔、仲丁付近を「春雨庵」と呼んでいた、と古老から聞いたことがあるが、このことに由来するものかもしれない。

春雨庵は昭和二十八年八月三十一日、遺蹟と山の井のある敷地が山形県有形文化財史蹟保存の指定を受けた。現在の建物は、東京・品川の春雨寺（しゅんぬじ）の天井、長押、棹縁を譲り受け、昭和三十年七月に再建されたものである。



澤庵和尚旧蹟（湯上和気彦氏寄贈）

この品川・春雨寺は上山に建てられた春雨庵の建材と礎石を江戸に運んで建てたとも伝わっており、これが当時

のものであれば約320年ぶりに上山に里帰りしたことになる。恐らく当時のものとは考えにくいのが、春雨寺の建材を活用して再建したことに意義があるのだろう。

大正から昭和初期頃の絵葉書には、上山の名所旧跡として「澤庵和尚ノ旧蹟」がよく取上げられている。現在の春雨庵周辺は住宅地だが、当時は景色を遮るものがほとんど無かったことがわかる。現在の春雨庵の場所より南側にある地蔵と六面幢付近が「澤庵和尚旧蹟」と認識されていたのか、当時はその周辺全体を旧蹟としていたのかはつきりしない。ただ、この地に立つと、土岐頼行が澤庵和尚のため蔵王連峰が一望できる眺めの良い松山の地を選んだ理由が解るような気がする。

（公財）上山城郷土資料館 学芸員 大場 浩子

【常設展示室から】2階第3展示室に藤井松平関係資料（御朱印写、領地目録など）を展示します。